

ゼミ商品の市販化を通じた経営教育と地域連携

団体名 ● 奥村ゼミナール / 代表者名 ● 奥村実樹 (経済学部准教授)

はじめに

本プロジェクトは、耕作放棄地であった七尾市能登島の土地で自ら育てたサツマイモを原料にした焼酎の商品特徴とその付加価値について消費者に伝えるなど経営に必要な要素を学生に学ばせることを目的としている。なお、筆者がゼミナールを率いて本プロジェクトに関わるのは2014年度(市販化は2015年)からである。今年度は、新たな商品として「のとじまブルーベリーリキュール」を9月から販売開始し、予想を大きく上回る好評を得た。

活動内容



焼酎に関しては、春の苗植え、秋の収穫に加え、夏の合宿での生育状況の確認をおこなった。新商品となるブルーベリーリキュールに関しては、前期にちらしやラベルのデザイン選定と、製造元やちや酒造への見学をおこない、9月に産業展示館での大商談会と商品を購入した小売業者に対する販売促進支援活動をおこなった。



のとじまファームでの焼酎芋の収穫



リキュール販促用ちらし

成果、結果の考察

本活動に関しては、2014年の活動当初からメディアの方々に活動の趣旨をご理解頂き度々ご紹介にあずかってきた。2019年度の当該活動においても、北國新聞7回、北陸中日新聞4回もの紙面掲載の機会を頂いた。また、七尾市との関係としては、商品売上の一部寄付活動、ふるさと納税の返礼品に加え、新商品の商品化に際し、2018年度の「七尾市6次産業化推進事業」に採択され推進事業補助金を受けた。

また、プロジェクトに内在する社会的意図に関心を持つ企業から就職活動において非常に肯定的な評価を学生がいただいている。さらに、本活動において、大学の名前やマークの付いた商品が市販化され常時販売されていることに、本学における実践教育の象徴として一定の意義があると思われる。

今後の課題、展望

本プロジェクトは学校単体の事業でなく複数の関係者が関連する事業であるため、それら関係者の事情や考え方が活動に反映される。つまり、大学側の要望のみでスケジュールを組むことは難しい。しかし、それこそが実際のビジネスに近い形であり、格好の実践的教育の場となり得ることを強調したい。